

＜先週の説教から＞

「創立記念礼拝—私たちの頭と足に！」

武田 真治 牧師

イザヤ 51：10～11 ヨハネ福音書 13：3～11

本日は当教会の創立66周年記念礼拝です。数年前に出版されました『上尾合同教会記念誌』の最後の方にある統計によりますと、創立された1960年から2017年までの57年間に当教会で受洗された方々の人数が、累計でちょうど200人になります。幼児洗礼者も含まれている数ですが、実に多くの方々がこの教会との関わりの中でキリスト者となってくださったことをありがたく思うと共に、何より主の御導きと御支えに感謝し、今の私達もこの歴史の中に、各々の在り方で身を置かせて頂けるようにと願う者です。

以上の関係から、今日は改めて“洗礼”について一緒に考えてみたいと願っています。

私達キリスト者が“洗礼”を受けてキリスト者になるのは、イエス様が洗礼者ヨハネによってエルダン川に於いて、洗礼を受けられたことにともとの源を持ちます。そこから、イエス様に従おうとする者は自分もイエス様と同じように洗礼を受けることで、イエス様に繋がりたい、主と共に生きる歩みを始めたいと願うからです。従って、洗礼は本来、川や水の中に全身を浸して(＝バプティズム)行う儀式でしたが、途中から、頭に三度水を掛けて神様からの祝福(＝聖霊の付与)を祈る形でも施されるようになりました。全身を水に浸すことは配慮を持って行わないと洗礼を施す側も含めて、生命に関わることがあるからと一度にたくさんの方に授けることが難しかったからです。

この“頭に水をそそぐ形(＝滴礼)”は、実は旧約聖書からの伝統がある行為で《頭への祝福》に源を持ちます。例えば、サウルやダビデが王様に即位するときに預言者サムエルから頭に香油を注がれて祝福されたように。新約聖書以降はこれが頭に手を置いて祝福する《按手》となり、聖霊を付与する行為となりました。あのペンテコステの出来事の時に、弟子達ひとり一人の上に聖霊(＝イエス様の霊)が降ったように。その弟子たちが、次に誰かの頭に手を置いて『聖霊を受けよ』と祝福することで、ペンテコステに最初に降った聖霊が更に引き継がれて行ったとも言えるのです。

もう一つ、今日はイエス様が弟子たちの足を洗われた《洗足の出来事》も読んで頂きました。そこでイエス様が言われた『既に体を洗った者は、全身清いだから、足だけ洗えばよい。』という言葉は、洗礼と洗足の役割の違いを話しておられる言葉と言い得ます。逆に言えば、この世を生きる私たちはどうしても、その地と接する“足が汚れる”のだから、常日頃から足を洗う必要があると！これは、洗礼を受けてから後の生活として、私たちに教会や礼拝、特に聖餐式が定められている理由ではないでしょうか？

自分はもう洗礼を受けたのだから、完全に清く、罪を犯すことがないと思い込んでいると、世に接する足から体全身へと罪が侵食していることを見抜けず、後に大きな腐敗や間違いを犯してしまうことになりかねません。罪を甘く見てはいけません。ここに絶えず、悔い改めながら生きる必要性があります、各々の十字架を背負って生きるのですから！

【今週の集会】

*聖書研究・祈禱会 I. 7月22日(水) 20:00
II. 7月23日(木) 10:30

聖書研究: ヨブ記

祈禱主題: 牧会委員会を覚えて

担当者: (水) II (木) NS

祈りに覚える人 SMさん SYさん

*ハンナの会 7月21日(火) 10:30～

【教勢報告】

主日礼拝 男15 女52 計67

祈禱会 I. 男3 女2 計5 II. 男1 女6 計7

日曜学校 幼稚科3 小中科11 計14

【次週礼拝】 7月26日(日)

聖書: 詩編 62:1～13

フィリピの信徒への手紙 4:6～7

説教: 「詩編61—私の魂は沈黙して

神に向かう！」 武田 真治 牧師

讃美歌: 178(1)、32、454(1～4)、454(5～

【次週当番表】 7月、503、88(1)

司式: HN 長老 奏楽: SY 礼拝: KY 長老

献金: SY SY 受付: KH SY

会堂準備: OK KH KA TN

NE

看板: NY 週報: IT お花: IY

【次週集会予定】

礼拝前: ・日曜学校 ・聖書輪読会 ・はこぶねルーム

礼拝後: ・お茶の会 ・牧師と語る会 ・聖歌隊練習

・牧会/礼拝/伝道/社会教育 各委員会

67 - 29

週報

2026年度 教会標語

「神様に“望み”を持って、生きる！」

2026年 7月 19日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549